

一以貫之

(いちいかんし)

「一を以って之を貫く」とも読みます。
孔子の『論語』にある言葉で「一つの思いを 曲げずに貫き通す」という意味です。
自分がこれと思ったことは、諦めずに最後まで頑張り通しましょう!

敦賀気比高等学校 第1学年
学年通信 第4号
発行 令和2年9月1日(火)

2学期スタート!

高校1学年主任 時岡 隆夫

皆さん。初めての「気比校祭」はどうでしたか。
今年度の決まり文句になってしまいましたが、新型コロナウイルスの影響で、例年とは違った形の気比校祭となってしまいました。高校ならではの学校祭の雰囲気を感じてもらえたのではないかと思います。

特に体育祭では、1年生が主役となった徒競走では、走るのが得意な人も、そうではない人も、真剣に前を向いて走る姿を見ることができ、いつも以上に力が入りました。また、団別演技では、遠くではありましたが、先輩の指示に従い、汗をかきながら演技する姿が輝いて見えました。



お疲れ様でした。

ところで、2学期の始業式は、すでに8月17日に行われました。

そして、さっそく新しい分野の授業が始まったという教科がある一方で、夏休みともいえないような10日にも満たない夏休み明けということで、本来ならば夏休み中の課題となるはずだったことに取り組んでいる教科もあるのではないのでしょうか。

しかし、この「気比校祭」が終わり、9月の声を聞く明日からは、どの教科であれ、新しい分野の授業が行われ、2学期が本格的にスタートします。

さて、**高校1年生の2学期始業式を「第2の入学式」というのですが、知っていますか。**

高校1年生の1学期は、中学生であった皆さんに高校生としての自覚を持ってもらう期間でした。いわば「お試し期間」だったというわけです。

しかし、この2学期からは、**皆さん一人一人が敦賀気比高校を背負って立つ一員としての自覚を持って行動する必要がある**のです。

このことは、部活動をしている人はすでに感じていると思うのですが、3年生は引退して、活動の中心が2年生に移り、1年生といえども学校の代表として活動する機会が多くなるからです。

そのため2学期を、皆さん一人一人にかかる負担は大きくなると思いますが、そのことを言い訳にすることなく、真剣に教科学習と向き合い、教科としてよい成果を残し、社会人として必要なコミュニケーション能力を、しっかりと身に付ける期間としてください。



9月の行事予定

- 7日(月) 教育実習(～10/2)
- 11日(木) 美術専攻展(プラザ万象、～13日)
- 10日(木) 内科検診(5～7限目)
- 11日(金) 後期生徒会選挙(6限目)
教室ワックスがけ(放課後)
- 18日(金) QU検査(6限目)
- 24日(木) 歯科検診(5～7限目)
- 28日(月) 性教育講話(7限)
生徒議会(放課後)



学習の仕方、教えます (その2)

学年通信第3号(6月29日発行)に引き続き、今月号も学習の仕方について書いてみたいと思います。

これを読んでいる人の中には、「高校入試も経験したのだから、学習の仕方くらいわかっている」という人もいるかも知れません。

しかし、そうではありません。

この思い込みが「高校で思ったような成績が出ない」とか「高校に入って成績が下がり始めた」、あるいは「何をやればいいのかわからなくなった」といった問題の原因であることが多いからです。

何故このようなことが起こるのかというと、**中学と高校では求められることが違う**からです。



まずは、覚えることが増えるということです。

英語の単語数を比べると、中学卒業時で1200語ですが、中学から高校卒業時で3000語(高校では1800語)といわれていますから、単純に1.5倍ということになります。だから、中学のときには、試験前に一夜漬けて済ませることも可能だった量だったかも知れませんが、高校では一夜漬けではうまくできなくなるのです。したがって、**毎日の家庭学習(授業の振り返り)が重要**になってくるのです。

次に重要な点はなかみです。中学最初の授業を思い出してもらえばわかるように、最初は新出単語ばかりが並んでいたはずですが、基本的な単語ばかりでした。高校では、単に単語の数が増えるだけではなく、単語自体の文字数も多く、意味や発音などが単純ではないものも増えてきます。

(「隣人」という意味の英単語が書けますか? 答え最後に書きました。)

ここでは英単語を例に書いていますが、他の教科でも同じようなことが求められているのです。それを端的に示すのが入試問題でしょう。



たとえば、高校の入試問題では「**鎌倉幕府が成立した年は何年ですか**」といった質問があり、「1185年」と教科書に書かれているので、そのように答えるだけでよかったのではないかと思います。(少し前までは、1192年と教えられたのですが...)

ところが大学入試では「**鎌倉幕府が成立した経緯と結果について書きなさい**」という具合に出題されたりします。こうした質問に答えるためには、単に覚えるだけではなく、与えられた知識を使って考える事が大切になります。

ですから、**授業においても、静かに聞くのではなく、「なぜだろう」、「他の方法(答え)はないのだろうか」と自分で考えを進めていくような態度が求められる**のです。

さて、これまでは普段の学習についての心構えを書いてきましたが、この努力を試験の成果に反映するにはどうしたらいいのでしょうか。

次に示す表は「加速学習法実戦テキスト」というコリン・ローズが書いた本に載っている実験結果です。

勉強の時間	100%	80%	60%	40%	20%
復習の時間	0%	20%	40%	60%	80%
記憶できた言葉の数	65	92	98	105	137



ここでいう勉強の時間は、最初に試験範囲を見直して学習した時間として考え、復習の時間は、くり返し見直した時間と考えればいいと思います。たとえば、勉強の時間80%に対し復習の時間20%というのは、とにかく一通り試験範囲を学習した後に、少しだけ見直しをしたという感じでしょうか。これに対し、勉強の時間20%に対し復習の時間80%というのは、試験範囲を5回繰り返して見直したということです。

試験勉強の方法は十人十色ですが、この実験結果からいえることは、一つ一つ丁寧に学習しておくより、**最初は大きな理解でいいから何度も繰り返して試験範囲の学習を繰り返すことによって、よい成績が得られる**ということです。

この学習法を、中間考査に向けて一度試してみてもはどうでしょうか。

(「Y」が「Y」の逆、つまり「Y」の逆は「Y」)